

江戸行きと松前行き

柏崎市立博物館 令和6(2024)年度

秋季企画展



－ 柏崎の縮布商と麻漁網 －

10/12_(土) ~ 11/24_(日)

休館日 10/15・10/21・10/28・11/5・11/11・11/18

9:00~17:00 (入館は16:30まで)

※ 常設展示室及びプラネタリウムをご覧になる場合は、別途料金が必要です。

入場無料

関連イベント

いずれも

博物館小ホール・先着順・要申込・10/10(木)から電話で博物館へ

10/19_(土)

講演会「柏崎の縮布商い」

三井田忠明さん(新潟県民具学会会長)

14:00~15:30 定員20人(先着順) 参加無料

11/4_(月・振休)

ワークショップ「カラムシ体験・アングイン編み」

ならんごしの会(農と縄文の体験実習館なじもん)

14:00~16:00 定員10人(先着順) 参加費1,000円

11/16_(土)

映像ギャラリー「柏崎市荒浜の麻苧網について」

14:00~15:30 定員20人(先着順) 参加無料

柏崎市立博物館

〒945-0841 新潟県柏崎市緑町8-35

(赤坂山公園内)

電話 0257-22-0567 (月曜休館)

詳しくはこちらから▶





「刈羽郡物産見立競」東西の「関脇」に注目
(明治32(1899)年『柏崎町鑑』)

— 柏崎の縮布商と麻漁網 — 江戸行きと松前行き

本展では柏崎の産業史から、越後縮の旅商いと麻素材の漁網製造を紹介します。

越後縮の旅商いは、産地から仕入れた生機を柏崎で加工し、江戸（東京）の得意先をまわる商人は「江戸行き」と呼ばれました。一方、麻素材の漁網は「麻苧網」と呼ばれ、金引麻を原料に柏崎の荒浜・宮川で製造され、北海道で取引した「松前（北海道）行き」の人びとが扱いました。これらの製品は、明治時代の見立て番付には「縮布」や「製網」の表記で、ともに「関脇」として上位にランキングされた名産品だったのです。麻製品であることは共通しますが、それぞれの状況は大きく異なりました。

本展は、製品の製造や販売に関する資料をとおして、それぞれの特徴と、製造や商売に携わった人びとの様子を取り上げます。

【上段】縮布の加工や旅商いの道具（一部） 【下段】麻漁網の製網用具（一部）や作業風景



公式HP

柏崎市立博物館

〒945-0841 新潟県柏崎市緑町8-35（赤坂山公園内）
電話 0257-22-0567（月曜休館）
開館時間 9：00～17：00（入館は16：30まで）

【入館料】 常設展示またはプラネタリウムをご覧になる場合、別途料金が必要です。

入館料の区分（カッコ内は団体料金）	一般・高校生	小中学生
常設展示	300円（240円）	無料
プラネタリウム	280円（220円）	140円（110円）
常設展示・プラネタリウム共通券	460円（370円）	—

身体障がい者手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちの場合、手帳または障がい者手帳アプリ（ミライロID）を提示すると、ご本人と介助者1名の入館料が半額になります（団体割引との併用はできません）。

【交通案内】

- 自動車 北陸自動車道（柏崎I.C.または米山I.C.）から一般道で約15分（博物館前または公園駐車場に駐車可能）
- JR 柏崎駅（信越本線・越後線）から徒歩約30分／タクシー約10分／バス15分（越後交通・柏崎駅南口より乗車し「赤坂山公園」下車）

